

# 地域おこし協力隊

## こんなこと

### 思ってます。



※年度切替の都合上、4月号の発行が5月になっています。記事は3月に執筆したものです。

## 黒澤

獣害対策を仕事としてしていると疎かになってしまう大切なこと。「獣害対策のための獣害対策になっていないか?」「何のために獣害対策が必要なのか、目的を見失っていないか?」。鋸南町で生活しながら獣害対策に関わったことで、この学びが一番印象的でした。

「とにかく農地を守りたい。そしてこの農地を含めた集落を後世に受け継ぎたい。」かつて作っていた農作物がイノシシやサル被害で作れなくなった。作りたい作物を存分に作ってみたい。「そんな農業を続けられるように農家さんの気持ちに寄り添うことが獣害対策には必要なことだ。(勿論、最近是非農家や住宅地での生活被害も無視でき

## 清水

地域おこし協力隊の任期も折り返しを迎えた今、真剣に考えることがあります。それは、任期後、はたして鋸南町に定住できるのか、ということ。定住をするには、職があるかどうか重要であると言われる。仕事をみつけるか、作るしかありません。しかし、最近それだけではないと感じています。もう一つ必要なのは、なるべく安く借りられる家を見つけられるかどうか、です。

「誰のどんな被害感情に寄り添ってどうやって一緒に課題に取り組むのか?」そういった観点は、実は地域社会で生活しないと感じることが難しいと思います。「地域に寄り添う」とは、言葉では理解できても実感を得るにはやはり生活してみないと分からないわけです。地域おこし協力隊というのは実はこの感性に沿った活動の必要性を理解するための制度なのではないでしょうか。

移住案内冊子「前略、鋸南より。」に掲載させていただいた移住者の田中さん。7年前に東金市から移住し、現在はサンセットブリーズに勤務しています。以前は水泳選手を育てるコーチをされていた、鋸南町に来てからも鋸南クロススポーツのクラブマネージャーとして、町のスポーツ振興に力を入れてられました。

## Dappe

発行元 鋸南町地域おこし協力隊  
住所 AKARI(地域おこし協力隊拠点)  
〒299-1902  
千葉県安房郡鋸南町保田66-1  
執筆 黒澤徹 清水多佳子 室井翼



地域おこし協力隊の鋸南ぐらし

# Dappe

## 4

2020



ラッチャーニテイライフ。楽しめろーカルライフ。

移住者で、サンセットブリーズスタッフの田中さん。

## 清水

今回、はっきり言って参りました。何が参ったかというところ、新型コロナウイルス（コロナウイルス）の影響のため、町のイベントがほぼすべて中止になってしまっています。私自身が企画していたイベントも中止にせざるをえなくなりました。しかし、この状況であればこそ、見えてきたこともあり、今回は、そのことについて書いてみます。

### (1) 町をゆっくり知り知ることができた

新型コロナウイルスの感染を防ぐため、休日、都内に帰省しないでもいました。当然、その分、町に居る時間も長くなるわけですね。そこで、鋸南町の魅力を知るため、町のさまざまなところを訪ねました。例えば先日、鋸南町の秘境ともいえる「大崩（をくずれ）」の知り合いのパーティと呼ばれ、焚火で作ったピザをいただきました。そこにあつたのは、鋸南町のゆったりとした時間と光……。観光とは、「光」を「観る」と書きます。イベントだけが観光ではないのです。町の光を私自身が見つけていく、よい機会であつたと感じています。



### (2) ネットを通じて仕事を可能にする

「Zoom」ってご存知でしょうか？ネットを通じて、会議ができるシステムのことで、今、ブームになっています。このほど、東京に住んでいる友人と、Zoomを使って、どこまで仕事ができるのか実験的に行いました。会議だけでなく、講師が資料を使って、授業をすることも可能なんです。職業にもよりますが、ネットの環境さえ整ってれば、地方でも十分、仕事ができることを多くの人が知るきっかけになったと思います。



### (3) 観光協会サイトの英語版を作っています

鋸南町には、外国人が好みそうな観光コンテンツがたくさんあります。鋸山や日本寺だけでなく、菱川師宣記念館などです。新型コロナウイルスの影響で外国人観光客が少なくなっている間に、サイトをオープンする準備をしています。新型コロナウイルスでの自粛ムードをきっかけに、今後、新しいモノや価値観が出てくるかもしれません。観光の担当者としては、新しい観光のあり方も考えていきたいと思っています。

## 室井

### 道の駅で移住の相談窓口やっています

道の駅保田小学校のまちのコンシェルジュで、毎月第2火曜日と第4土曜日に、移住の相談窓口を開設しています。移住したいけど、こっちに知り合いもないし、どんな町なのかわからないという方に、移住者である自分の目線で見たと鋸南町をお話しさせてもらい、場合によっては町内の案内などをしていきます。

## 「目的交流型“第3の場所”」 「内発的農村発展論」について

### 黒澤

私の鋸南町での「地域おこし協力隊」としての任期も今年の10月をもって終了です。11月からは新たな立場で引き続き鋸南町にお世話になる予定です。改めてよろしくお願ひ申し上げます。3年間の協力隊の活動で得た経験の基に、安房地域から千葉県を中心に全国へと獣害対策の支援事業を展開していきたいと考えています。千葉県では、これまで農山村の課題とされてきた獣害が、非農家や住宅集中地域での新たな課題ともなってきました。私が鋸南町で学んだ対策の手法やアイデアを千葉県各地から全国へと紹介できればと思っています。話題は獣害対策から地域振興へ。地域振興のあり方は多様だと思っています。ただ、企業を誘致すればよい時代は終わりましたし、移住・定住促進も現実には敷居の高いものです。人口減少は全国的なものですし、都市部への人口流出そのものも構造的な問題で分かりやすい解決方法はなかなか見出せません。今年度は台風災害の痛手や新型コロナウイルスなど想定外の事態が追いつつもなりました。鋸南町が取り組んできた「関係人口創出」の方向性や、「2拠点居住」「目的交流型サイドプレイス(1)づくり」といった観点で、内発的な活動(当事

者意識を伴いつつ地域から自発的に発現する活動)を起こさせるきっかけに交流事業を活用していくことが効果的だと考えています。自宅、仕事場とはことなる第3の場所、例えば獣害対策や農業のためのサロンのような情報交換の場に、都市住民にとつての第3の場所(もうひとつのふるさと)として、地域支援(例えば獣害対策サポートや災害ボランティア)を目的として関わることで進む内発的な地域振興の姿です。

(1) サイド・プレイス…コミュニティにおいて、自宅(家庭)や職場(仕事)とは別の心地のよい第3の居場所のこと。



※現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から一時閉鎖しています。

